

1. 目的

バスレフ型スピーカーは、低音域をヘルムホルツ共鳴によって増幅する方式であるが、密閉型との相対比較により、その効果と低域の過度特性について確認する。

2. 測定機材及び測定方法

- 1) F特性及び過度特性の測定 ⇒ 測定プログラム: My Speaker (F特性・過度特性)
- 2) スピーカー ⇒ 音響 D-77MRX (RcHのみ) : 密閉時は、バスレフポートを密栓状態にした。
- 3) アンプ ⇒ 音響 FR-N 7 SX (コンポ付属アンプ)

3. 測定方法

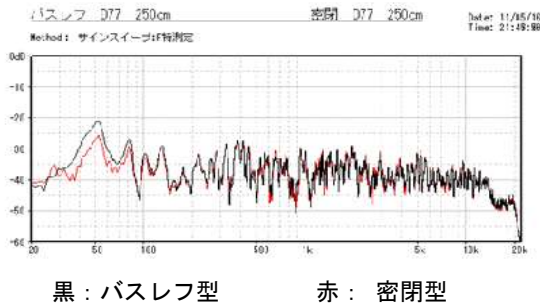
- 【F特性】⇒スピーカーとマイクの距離を50cm間隔で延ばし、測定ポイント6とした。
- 【過度特性】⇒スピーカーとマイクの距離は、10cmとした。※測定条件は、バスレフと密閉は同一とした。

4. 測定結果

【F特性】

- 1) マイク距離50cmから250cm
 - ・周波数20Hz~100Hzの範囲の音圧は、測定ポイントにおいて、バスレフ型の方が高かった。
 - バスレフの効果として、ヘルムホルツ共鳴により低音域が増幅することが確認できた。

図1 リスニングポイントにおけるF特性



【過度特性】

- ・過度特性は、100Hz以下でバスレフ型より密閉型の方が若干良好といえる。

図2 過度特性

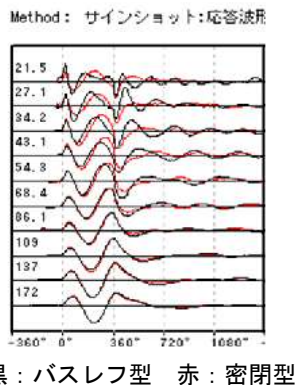
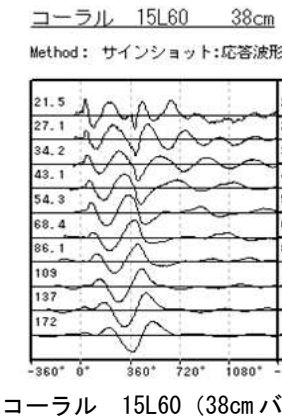


図3 過度特性 (参考)



以上